

議長定例記者会見の概要

日 時：令和5年10月11日(水)

午前10時33分～10時56分

場 所：議長応接室



9月定例会を終えての議長所感

(濱砂議長)

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。9月定例会も本日11日をもって、34日間の会期を終えたところであります。今定例会では、令和5年台風6号災害対策に係る追加補正予算を含め、合計16件の知事提出議案を全て原案のとおり認めたところです。このほか、議員発議の議案として4件の意見書を可決しました。

代表質問では4名、一般質問では11名の議員が質問に立ちました。今議会では特に、3つの日本一挑戦プロジェクトやコロナ、物価高・原油高からの宮崎再生に向けた取組など様々な課題について活発な議論が展開されました。

先般の統一地方選挙で初当選された議員12名のうち、6月定例会で登壇しなかった4名が一般質問を行い、これで、初当選議員全員が登壇したことになります。今後とも、議員同士が切磋琢磨し、より議論が深まっていくことを期待したいと思います。

令和4年度の決算については、予算が事業の趣旨や目的に沿い、適正、効率的に執行され所期の事業目的が達成されたかについて審査しました。今後、防災・減災、国土強靱化対策や継続する物価高騰等対策など、多額の財政負担が見込まれていることから、執行部に対して、引き続き健全な財政運営を行うように求めたところです。

今定例会においては、9月15日から22日までの1週間にわたり、宮崎産業経営大学の学生4名をインターンシップとして受け入れました。私と日高副議長も、直接意見交換を行い、若者の意欲的な姿勢に刺激を受けたところです。また、多くの報道機関の皆様には、この取組を取り上げていただいたことで、若者をはじめ、県民に広く議会の活動を周知することができたことを感謝申し上げます。今後も、議会の様々な情報を発信いただけると幸いです。私からは以上です。

質疑応答

【宮崎日日新聞】

代表質問の答弁の中で、知事が3つの日本一挑戦プロジェクトの出生数、再造林、キャンプ数の目標を出したと思いますが、県の取組に関して議長はどのように受け止めていますか。

(濱砂議長)

本県においては、全国的にも出生率は高いほうだと思いますが、それでもまだ目標は高く置かなければならないと思います。そのため、人口減少や未婚率の高さを考慮した適切な出生率の目標だと思っています。

再造林については、昭和48年頃の木材需要が旺盛な時期でしたが、そのときに植林されたものが伐期にきていますが、場所によっては伐採できず、再造林もできる状態になることが現在の問題だと考えています。

キャンプについては、PRも必要であります。先だって施設整備などを行いながらキャンプ誘致に取り組んでいかなければならないと思っています。

(日高副議長)

日本一挑戦プロジェクトのスポーツ観光分野では、ラグビーや野球の日本代表チームからキャンプ地に選ばれており、縁起が良いと思うので宮崎での受け入れが続くのではないかと考えております。しかし、ひむかスタジアムは両翼が100メートルなかったり、フェンスの安全性などの課題があるのではないかと考えています。そのような整備を行っていかないと、宮崎県にずっと根を張ってキャンプをしていただける保証はないと感じているところです。課題もある一方で、スポーツランドみやぎきの成果は確かにあらわれていると思います。

【読売新聞】

3つの日本一挑戦プロジェクトについて、知事の答弁のなかで来年度予算でこれまでの枠にとらわれない独自施策を構築するという話がありましたが、これから予算編成も本格化する中で議会として期待したいことや求めたいこと、出てきた予算にどう向き合っていくかということをお教えください。

(濱砂議長)

消極的になるのではなく、しっかりと予算を組んでいただき、そのうえで、我々はその内容を吟味しながら、審査し認めていきたいと思っております。

【共同通信】

学生のインターンシップ受入で意欲的な姿勢に刺激を受けたとのことでしたが、具体的にどのような意見交換がされたのですか。

(濱砂議長)

内容については、議員になったきっかけや議員のやりがい、議長・副議長の仕事で難しいと感じることなどを世間話を交えながら意見交換を行いました。議会に対する期待など、学生視点での現実的な話があり、非常に好感が持てたところであります。

(日高副議長)

少子化対策に係る意見交換の中で、子どもを産むとお金がかかり、親の苦勞を見ているからと、出産について後ろ向きな考え方を持っている方もおりショックを受けました。市町村と連携して、どのように効果を上げていくのかを学生視点も取り入れながら行っていくべきではないのかと感じました。

【西日本新聞】

議会の質問でもパートナーシップ宣言、LGBTQに関連する質問が度々出ていました。そのような性的マイノリティーの人たちが養子をもたらうことを促進するという考えはないでしょうか。

(日高副議長)

国会でも審議がされておりますが、世の中の環境もあるのではないかと思います。先ほどのインターンシップの話でも、少子化対策について学生との意見交換で、まずは、産み育てやすい、出産から教育まで手厚い宮崎県を目指した方が良いのではと思いました。

【西日本新聞】

来年4月にJAが県域になると決まりましたが、県域JAに向けての課題についてどのように考えていますか。

(濱砂議長)

県域JAは13地区のJAを一つにすることで、九州では初となります。統合にあたって、13JAの連携をどのように取り合っていくのが重要になってくると思っております。窓口体制や指導体制をどのように維持していくのか、本店機能と管理機能の充実など基本的なところの課題があると思っております。

(日高副議長)

合併に伴い、農家にどれだけお金が残せるかということが重要になってくるのではないかと考えています。地区によっては、頭数の関係で2か月に1回しか競りができなかつたこともあるみたいです。一体的に行えば、毎月競りができる状況になったり、競争力もあがり、プラスに働くのではないかと考えています。一方で、運搬に時間がかかるなど、今後見えてくる課題もあるのではないかと考えています。